

第 2 章 分担研究報告書

母子保健情報利活用の推進のための環境整備に関する経過報告

研究代表者 山縣 然太郎（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）
研究分担者 松浦 賢長（福岡県立大学看護学部）
研究分担者 山崎 嘉久（あいち小児保健医療総合センター）
研究分担者 尾島 俊之（浜松医科大学医学部健康社会医学講座）
研究協力者 市川 香織（文京学院大学保健医療技術学部看護学科）
研究協力者 篠原 亮次（健康科学大学健康科学部）
研究協力者 秋山 有佳（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）

「健やか親子21（第2次）」の課題である母子保健領域における格差の是正および母子保健情報の利活用の推進のため、今年度から新たに始まった「母子保健改善のための母子保健情報利活用に関する研究」班（以下、本研究班）では、乳幼児健診を中心とした自治体の事業データをより簡便に利活用できるようなシステム、および母子保健関係機関が連携して母子を支援することができる体制の構築を目指すことを目的とした。本稿では、母子保健情報利活用の推進のための環境整備について、本研究班による検討会議および研修会の実施に関する経過を報告する。

今年度から本研究班は新体制となり、第1回の班会議では、「出生届出時から乳幼児健診の情報の入力システムの構築とモデル事業」「母子保健情報利活用のためのガイドラインの作成」「母子保健領域における予防、健康増進の視点からのデータベースの構築とシステムティック・ビュー」「『健やか親子21（第2次）』に係る自治体等の取り組みのデータベースの構築・運営」の4つの計画を示し、本研究班の方向性を示した。

「出生届出時から乳幼児健診の情報の入力システムの構築とモデル事業」としては、福岡県での特定妊婦の実態調査や産科医療機関と地域との情報共有体制の整備のためのモデル調査の実施に向けた準備を進めた。来年度はモデル地区での調査実施を予定しており、その結果が今後の産科医療機関と行政間の情報共有の一助となることを期待する。また、母子保健に関するシステムティック・レビューや健康格差に関する検討から、母子保健情報利活用のためのガイドライン作成に向け、基盤が整いつつある。来年度以降、さらに研究を進め、ガイドライン作成を進めていく。また、母子保健情報利活用のための研修プログラムの作成も進んでおり、母子保健情報利活用の環境基盤の構築が促進できた。

A. 目的

「健やか親子21（第2次）」が開始されてから2年が経過した。本研究班は、昨年度まで「『健やか親子21』の最終評価・課題分析および次期国民健康運動の推進に関する研究」班として、「健やか親子21」の最終評価および「健やか親子21（第2次）」の策定・推進に

取り組んできた。しかしながら、平成25年度に実施された「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会においては、母子保健事業の推進のための母子保健情報の利活用が不十分とされ、「問診内容等情報の地方公共団体間の比較が困難なこと」、「情報の分析・活用ができていない地方公共団体があること」、「関連機関の

間での情報共有が不十分なこと」という現状課題が挙げられた。

これら課題を受け、「健やか親子21」および「健やか親子21(第2次)」の推進のため、特に情報の利活用や母子保健関係機関との連携が取れる環境・体制の構築の推進を検討、支援してきた。具体的には「健やか親子21」ホームページの構築・運営、搭載した母子保健情報および地域での「取り組みのデータベース」の運営を行ってきた。さらに、乳幼児健康診査(以下、乳幼児健診)の情報利活用に資するツールとして、「乳幼児健診情報システム」の開発を行い、全国に提供した。

そして、今年度から新たに始まった「母子保健改善のための母子保健情報利活用に関する研究」班(以下、本研究班)では、乳幼児健診を中心とした自治体の事業データをより簡便に活用できるようなシステム、および母子保健関係機関が連携して母子を支援することができる体制の構築を目指すことを目的とした。

本稿では、母子保健情報利活用の推進のための環境整備について、本研究班による検討会議、研修会の実施に関する経過を報告する。

B. 方法

1. 母子保健情報利活用の推進のための環境整備に関する検討会議

平成28年度は、研究班全体の会議(班会議)を2回、「健やか親子21(第2次)」ホームページに関する全体会議1回、「健やかな親子」とは何かの検討、および「健やか親子21(第2次)」の更なる推進に関する合宿1回、会議1回、出生届時から乳幼児健診の情報の入力システムの構築に関する進捗状況報告会1回、産科医療機関との連携に関する調査実施に関する打ち合わせ会議1回、実施した。会議の日程と予定した内容は次の通りである。

【班会議】

- 第1回班会議：平成28年6月1日(水)
(時間：18:00~21:00 場所：東京)

検討内容

- 1) 平成28年度の計画内容について
- 2) 各研究分担者の研究計画発表
- 3) 「乳幼児健診情報システム」の改修について
- 4) 公衆衛生学会における自由集会について

- 第2回班会議：平成29年2月14日(火)
(時間：18:00~21:00 場所：東京)

検討内容

- 1) 研究分担者の研究報告
- 2) 今年度の総括
- 3) 来年度の方向性について
- 4) 報告書作成について

【「健やか親子21(第2次)」ホームページに関する全体会議】

日時：平成28年6月1日(水)

(時間：17:00~18:00 場所：東京)

検討内容

- ・ ホームページの運営方法について

【「健やかな親子」とは何かの検討、および「健やか親子21(第2次)」の更なる推進に関する合宿・会議】

- 合宿：平成28年10月21日(土)~
平成28年10月22日(日)
(場所：山梨)

検討内容

- ・ 「健やかな親子」とは何か、について

- 会議：平成28年12月26日(月)
(時間：16:00~19:00 場所：東京)

検討内容

- ・ 合宿後の進捗状況について

【出生届出時から乳幼児健診の情報の入力システムの構築に関する進捗状況報告会】

日時：平成 28 年 11 月 28 日（月）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

検討内容

- 1) 研究分担者および研究協力者の研究の進捗状況に関する発表
- 2) 今後の方向性について

【産科医療機関との連携に関する調査実施に関する打ち合わせ会議】

日時：平成 29 年 1 月 7 日（土）

（時間：12：00～15：00 場所：東京）

検討内容

- ・ 調査実施に関する検討

2. 平成 28 年度母子保健指導者養成研修等事業（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）における「平成 28 年度『健やか親子 2 1（第 2 次）』と母子保健計画の策定・評価、母子保健情報の利活用についての研修」

平成 28 年度母子保健指導者養成研修等事業（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）「平成 28 年度『健やか親子 2 1（第 2 次）』と母子保健計画の策定・評価、母子保健情報の利活用についての研修」において、次の 3 つについての講義と演習の準備を行った。

- 「母子保健計画の策定と『健やか親子 2 1（第 2 次）』の指標に基づく問診項目」（講義・演習）
- 「予算がなくてもできる！母子保健計画の策定と PDCA サイクルの進め方」（講義・演習）
- 「自分の地域の母子保健計画について考える～現在の取り組み状況と課題～」(グループワーク)

ループワーク)

また、研修会日程を以下に記す。

【日程】

・東京会場（1 回目）

日時：平成 28 年 7 月 22 日（金）

場所：平和と労働センター・全労連会館

研究班担当者：山縣然太郎（山梨大学）

松浦 賢長（福岡県立大学）

篠原 亮次（健康科学大学）

秋山 有佳（山梨大学）

・大阪会場

日時：平成 28 年 7 月 28 日（木）

場所：CIVI 研修センター新大阪東

研究班担当者：山縣然太郎（山梨大学）

尾島 俊之（浜松医科大学）

篠原 亮次（健康科学大学）

秋山 有佳（山梨大学）

・福岡会場

日時：平成 28 年 8 月 9 日（火）

場所：リファレンス駅東ビル

研究班担当者：山縣然太郎（山梨大学）

松浦 賢長（福岡県立大学）

篠原 亮次（健康科学大学）

秋山 有佳（山梨大学）

・仙台会場

日時：平成 28 年 8 月 24 日（水）

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台東口

研究班担当者：山縣然太郎（山梨大学）

尾島 俊之（浜松医科大学）

篠原 亮次（健康科学大学）

秋山 有佳（山梨大学）

・東京会場（2 回目）

日時：平成 28 年 8 月 28 日（日）

場所：平和と労働センター・全労連会館

研究班担当者：山縣然太郎（山梨大学）

松浦 賢長（福岡県立大学）

篠原 亮次（健康科学大学）
秋山 有佳（山梨大学）

（倫理面への配慮）

今年度は調査等の実施はなく、個人データの扱いはない。来年度実施予定の調査に関しては現在倫理申請準備中である。

C. 結果

1. 母子保健情報利活用の推進のための環境整備に関する検討会議

【班会議】

● 第1回班会議検討内容

日時：平成28年6月1日（水）

（時間：18：00～21：00）

場所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター
カンファレンスルーム40（オー）

検討結果

1) 平成28年度の研究計画内容について

（1）本研究班の目的

- ・ 乳幼児健診を中心とした市町村事業のデータの利活用システムの構築
- ・ 母子保健情報利活用のガイドラインの作成

（2）研究計画

- 出生届出時から乳幼児健診の情報の入力システムの構築とモデル事業
- ・ ソフトのカスタマイズ（平成28～30年度）
- ・ 都道府県用集計・解析ソフトの開発（平成28年度）
- ・ モデル地区によるシステムの構築と検証と研修プログラム作成（平成28～30年度）

<担当>

- ・ 山縣然太郎：総括、デザイン

- ・ 山崎 嘉久：乳幼児健診
- ・ 松浦 賢長：問診票
- ・ 市川 香織：妊娠期助産
- ・ 松田 義雄：妊娠期医療
- ・ 菅原 準一：地域モデルの構築（宮城県）
- ・ 永光信一郎：地域モデルの構築（福岡県）
- ・ 吉田 穂波：研修プログラムの構築

■ 母子保健情報利活用のためのガイドラインの作成

- ・ ガイドライン（原案）の作成（平成28年度）
- ・ ガイドライン（原案）についての自治体からの意見集約（平成29年）
- ・ ガイドライン（最終版）の作成（平成30年度）

<担当>

- ・ 研究分担者および研究協力者全員

■ 母子保健領域における予防、健康増進の視点からのデータベースの構築とシステムティック・レビュー

- ・ 現在構築している母子保健データベースの見直し（平成28年度）
- ・ 母子保健領域の予防、健康増進の視点からのシステムティック・レビュー

<担当>

- ・ 山縣然太郎：総括
- ・ 尾島 俊之：疫学
- ・ 森 臨太郎：システムティック・レビュー
- ・ 研究協力者

■ 「健やか親子21（第2次）」に関わる自治体等の取り組みのデータベースの構築・運営

- ・ 年に一度のデータ収集（平成28～30年度）

- ・ 効果のある取組や新規性のある取組を選別した「セレクト100」の提示（平成30年度）

<担当>

- ・ 山縣然太郎：総括
- ・ 尾島 俊之：公衆衛生
- ・ 市川 香織：妊娠期
- ・ 山崎 嘉久：小児期
- ・ 松浦 賢長：学校保健
- ・ 近藤 尚己：ソーシャル・キャピタル

2) 研究分担者の研究計画発表

(1) 山崎 嘉久

<研究テーマ>

- ・ 乳幼児健診情報を母子保健事業に活用する実践的な検討
- ・ 妊娠期から出生届出時・乳幼児健診への縦断的なデータの活用と「乳幼児健診情報システム」のカスタマイズ

<今度の方向性>

- ・ 疾病スクリーニングの判定データの活用。
- ・ 乳幼児健診の間診データを活用した健康格差の図示化や統計処理手法。
- ・ 妊娠期から出生届出時・乳幼児健診への縦断的なデータの活用。

(2) 上原 里程

<研究テーマ>

- ・ 市町村の母子保健対策の取組状況-都道府県別のグラフ化の試み-

<今度の方向性>

- ・ 47都道府県および指定都市、特別区、保健所設置市について取り組み状況のグラフ化。
- ・ グラフから読み取れる特徴を都道府県別に示す。

(3) 森 臨太郎

<研究テーマ>

- ・ 母子保健・医療領域における積極的予防に関する系統的レビュー

<今度の方向性>

- ・ ランダム化比較試験を基盤にした介入に関して主要な系統的レビューを整理。
- ・ 我が国の状況を踏まえ、ギャップにあたる介入に関して系統的レビューを実施。
- ・ 我が国の母子保健に資する予防的介入の整理をし、エビデンス生成につなげる。

(4) 菅原 準一

<研究テーマ>

- ・ 母子保健情報利活用に資する調査研究-センタードネットの拡張について-

<今度の方向性>

- ・ 情報共有を目的とした調査の実施。
- ・ センタードネットシステム改修に関する要件の検討。

(5) 永光 信一郎

<研究テーマ>

- ・ 自治体における母子保健情報の利活用に関する研究(福岡県における調査研究)

<今度の方向性>

- ・ 母子保健情報を利用する側の意識をいかに高めていくか。
- ・ 母子保健情報利活用システムが稼働することの検証。

(6) 松浦 賢長

<研究テーマ>

- ・ 市町村、都道府県、職域、大学という軸と保健福祉教育という軸をにおいて、市区町村規模に分けて検討

<今度の方向性>

- ・ リエゾン型の配置や市町村規模ごと、をキーワードにした調査の実施。
- ・ 医療機関との情報共有をどのように行っていくかという点の把握。

(7) 松田 義雄

<研究テーマ>

- ・ 医療機関と行政機関の連携のツールの実用化

<今度の方向性>

- ・ 昨年度作成した医療機関と行政機関の連携フローを利用し、実際の連携に使用できるツールの作成。
- ・ 連携のフロー、問診票、チェックリストの見直し。

(8) 市川 香織

<研究テーマ>

- ・ 母子ともに最も大変と思われる、産後1か月健診から乳幼児健診の時期にどうサポートするかという課題についての検討

<今度の方向性>

- ・ 昨年度まで行っていた分析に引き続き取り組む。
- ・ 産後ケア。

(9) 尾島 俊之

<今度の方向性>

- ・ 「健やか親子21(第2次)」に関わる自治体の取り組みのデータベースの構築。
- ・ 中間評価に向け、1年ごとの進行、推移の把握。
- ・ 「健やか親子21」に関するデータの分析。
- ・ 取り組みのデータベースの「セレクト

100」。

- ・ システムティック・レビュー。
- ・ 低出生体重に関する研究。

(10) 吉田 穂波

<研究テーマ>

- ・ 母子保健情報システムの構築と地域プログラムの構築(研修プログラムの構築)

<今度の方向性>

- ・ 地域・市町村の規模、そこにある医療機関、教育機関などのリソース、そしてその連携状況に併せた人材育成手法の開発。

3)「乳幼児健診情報システム」の改修について

平成26年度に「乳幼児健康診査の実施と評価ならびに多職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究」(山崎班)で示された推奨問診項目(育児環境項目:あなたの日常の育児の相談相手は誰ですか)の回答は自由記載だが、乳幼児健診情報システムでは、テキスト入力ができないため、2015年度版では最終評価の時に用いた項目の回答選択肢を参考にしたものを使用しており、単一回答で入力するようになっている。しかし、自治体から複数書いている場合の対応について、問い合わせがあるため、再検討の必要があった。検討の結果、2016年度版では、選択肢は引き続き最終評価の時に用いた項目の回答選択肢と同様とし、複数回答可能とした。

4) 公衆衛生学会における自由集会について

今年度も引き続き、毎年秋に開催される公衆衛生学会(第75回日本公衆衛生学会学術集会:大阪)における自由集会で「健やか親子21」に関する会を開催することに決定した。表題は「第75回日本公衆衛生学会学術総会 自由集

会～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く
健やか親子21(第2次)」とし、内容は、母子保健計画策定のための要点とデータ収集の意義、および利活用の方法についての講演とディスカッションとした。公衆衛生学会における自由集会についての報告は、後述の分担研究報告書(第75回日本公衆衛生学会学術総会 自由集会～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く 健やか親子21(第2次)第2回報告:秋山有佳)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

● 第2回班会議検討内容

日時:平成29年2月14日(火)

(時間:18:00~21:00)

場所:ステーションコンファレンス東京 605A

1) 研究分担者の研究報告

(1) 松田 義雄

<研究テーマ>

- ・ 要支援妊婦の抽出を目的とした医療機関における「問診票を用いた情報の把握」および行政機関との連携方法の開発

<報告>

- ・ テーマである連携方法の開発のパイロット調査として、大阪、宮城、東京の産科医療機関で調査実施に向けて調整している。
- ・ 医療機関で使用する問診票の検討を行い再生した。
- ・ 調査実施のため、倫理委員会への申請準備を行っている。

本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(要支援妊婦の抽出を目的とした医療機関における「問診票を用いた情報の把握」および行政機関との連携方法の開発:松田義雄)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

(2) 永光 信一郎

<研究テーマ>

- ・ 自治体における母子保健情報の利活用に関する研究(福岡県における調査研究)

<報告>

ライフステージから振り返り、母子の健康改善に何が必要なかを検討した。

- ・ 妊娠期:特定妊婦とその出生時の実態調査
- ・ 乳幼児期:乳幼児健診のデータを利用した母子の健康改善のために必要な項目の抽出
- ・ 思春期:思春期の子どもたちの保健課題の踏査
- ・ 今後の展望:中核都市(久留米市)における行政と大学が協働する妊娠期から子育て期における支援の構築

本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(特定妊婦の実態調査とその出生児の転帰に関する研究:永光信一郎)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

(3) 松浦 賢長

<研究テーマ>

- ・ すべての子どもを対象とした要支援情報の把握と一元化に関する研究

<報告>

- ・ 福岡県嘉麻市における妊娠期・周産期の要支援の把握についての報告。

本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(すべての子どもを対象とした要支援情報の把握と一元化に関する研究:松浦賢長)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

(4) 山崎 嘉久

< 研究テーマ 1 (山崎) >

- ・ 自治体における母子保健情報の利活用に関する研究(愛知県における調査研究)

< 報告 1 (山崎) >

- ・ 乳幼児健診情報を母子保健事業に活用する実践的な検討について
- ・ 妊娠期から出生届時・乳幼児健診への縦断的なデータの活用と「母子保健情報データベース」のカスタマイズについて
本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(乳幼児健康診査事業の評価指標データの利活用に関する研究:山崎嘉久)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

< 研究テーマ 2 (佐々木) >

- ・ 高校生の性別や体格と友人・異性との交際に関する意識の関係性

< 報告 2 (佐々木) >

平成 25 年に『『健やか親子 21』の最終評価・課題分析および次期国民健康運動の推進に関する研究』班(研究代表者:山縣然太郎)が実施した、思春期性行動指標調査のデータをを用い分析を行った。対象は、全国から無作為抽出した 81 校に在籍する 16~17 歳の高校生であり、解析対象者は男児 921 人、女児 949 人の計 1,870 人である。

解析の結果、高校生の体格は、友人や異性との交際に関する意識と関連性があり、特に肥満との関連性が高かった。肥満傾向の男児では、性行動は相手を傷つけないと考えており、また女児では相手を尊重する意識や行動が低いことが示唆された。一方、やせ傾向の高校生の異性との交際に関しては、男児では「親の眼」を気にしており、女児では「周囲の眼」を気にしておらず、性行動は相手を傷つける可能性が低いことが示唆された。

特に肥満児に認められた結果は、既報で示されている自己評価の低さに起因する可能性が考えられる。

(5) 市川 香織

< 研究テーマ >

- ・ 妊産婦・乳幼児保健対策関連のデザインと解析-「産後ケア」の実施状況と今後の課題-

< 報告 >

- ・ 国内で実施されている産後ケアの内容と効果について
- ・ 産後ケア施設へのヒアリング結果について
- ・ 産後ケア利用者が認識しているケア内容について
- ・ 今後の課題について
- ・ 本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(日本における産後ケアの実施状況に関する研究:市川香織)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

(6) 菅原 準一

< 研究テーマ 1 >

- ・ 宮城県内産科医療機関を対象とした母子保健との連携状況調査

< 報告 1 >

- ・ 周産期医療体制整備指針に関わるかわる調査の一環として質問項目を追加し施行。
- ・ 対象は、分娩取り扱い施設、妊婦健診実施診療所、助産所とした。
- ・ 特定妊婦に対する母子保健との連携について。

< 研究テーマ 2 >

- ・ 宮城県内市町村(35市町村)を対象とした医療機関との連携調査

< 報告 2 >

- ・ 調査方法は、宮城県保健福祉部子育て支援課の協力を得て、宮城県内全市町村に調査票を送付した。
- ・ 35 市町村から回答を得、現在解析を進めている。

< 今後の予定 >

- ・ 医療機関および市町村からの回答により、医療と母子保健の連携が不十分な施設を選定し、モデル事業を開始する。
- ・ 調査票内容の分析を行う。
本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(母子保健情報システムの構築と地域モデル研究：菅原準一)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

(7) 上原 里程

< 研究テーマ >

- ・ 市町村における母子保健対策の取組状況：「健やか親子21」の推進状況に関する実態調査を用いた都道府県別観察

< 報告 >

- ・ 「健やか親子21」の最終評価を目的として平成25年度に実施された「『健やか親子21』の推進状況に関する実態調査」を用いて、母子保健対策に関する市町村の取組状況について都道府県別の観察を実施した。
- ・ 市町村がどのような母子保健対策を充実させたかについては都道府県によって差異があった。
- ・ 母子保健対策の項目によっては市町村の取組の充実と都道府県の取組の充実が関連していたことから、都道府県が取組を充実させることで市町村の取組状況に影響を与える可能性が示唆された。
- ・ 母子保健対策に関する市町村の取組状

況を把握することは、都道府県が市町村に対してどの分野を重点的に支援すべきかを検討するための基礎資料となり、「健やか親子21(第2次)」において都道府県や県型保健所の役割として示されている市町村との連携強化や協力・支援の充実を図ることに寄与するものと考えられる。

本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(市町村における母子保健対策の取組状況に関する研究(都道府県別の観察)：上原里程)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

(8) 森 臨太郎

< 研究テーマ >

- ・ 小児保健・医療領域における積極的予防に関する系統的レビュー

< 報告 >

- ・ データベースとして the Campbell library および the Cochrane Database of Systematic Reviews を用いた。
- ・ たばこ (family-based) 事故(driver) において効果が認められた。
- ・ たばこは school-based + non-school-based が効果的である可能性がある。
- ・ school-based に比べ、研究手法に問題がある分野が多かった。
- ・ ほとんどの分野において、長期的フォローアップに乏しいため、今後の研究課題と考える。

本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(小児保健・医療領域における積極的予防に関する系統的レビュー：森臨太郎)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

(9) 近藤 尚己

<研究テーマ1>

- ・ 低学歴な親ほど自宅内での喫煙が多いという関係を、周囲の喫煙率や受動喫煙に関する規範、あるいはそれに及ぼす環境要因がどの程度説明するか？

<報告1>

- ・ 自宅内喫煙率は、父親は35.9%、母親は64.0%であった。
- ・ 父親母親ともに教育年数の短い親ほど自宅内で喫煙をしていた。
- ・ 周囲の予測喫煙率(descriptive normsの代用変数)は、学歴による自宅内喫煙格差を父親は29%、母親は38%説明していた。
- ・ 周囲の喫煙及び受動喫煙に対する容認度(subjective normsの代用変数)は同様に10%、26%説明していた。
- ・ さらに、喫煙規範(喫煙が周囲の人や社会に受け入れられた行為であるという認識)は同居家族の喫煙から正の影響、職場の受動喫煙防止法制定から負の影響を受けていた。

本研究報告に関しては、後述の分担研究報告書(社会環境と子ども健康についての研究:受動喫煙防止対策における両親を取り巻く社会規範や環境の影響について:齋藤順子)で詳しく報告されているため、ここでは割愛する。

<研究テーマ2>

- ・ 関連するテーマについて、今後「健やか親子21」データを用いて実証すべき課題案の整理。

<報告2>

- ・ 市町村の継続的な組織連携と、乳児の父母の喫煙及び再喫煙状況との関連について。

- ・ 市町村の継続的な組織連携と乳児の父母の喫煙格差との関連について
- ・ 地域レベルのソーシャルキャピタルと、母親の喫煙格差との関連について

(10) 吉田 穂波

<研究テーマ>

- ・ 母子保健情報利活用における自治体のローカル・キャパシティ分析と地域の実情に合わせた研修開発に関する研究

<報告>

- ・ 全自治体の人口規模と出生数等の基礎情報を突合したところ、平成22年以降、「健やか親子21」を推進するための新たな連携の枠組みを構築した(回答があったもののみ)自治体はすべて人口10万人以上の都市であった。
- ・ 母子保健統計情報を冊子や電子媒体(ホームページなど)にまとめている自治体を抽出し、人口規模や出生数を分析したところ、67自治体はすべて人口10万人以上の都市であった。

2) 来年度の方向性について

- ・ 格差の是正
- ・ 母子保健情報の利活用推進のため、乳幼児健診のデータを利活用する
- ・ 取り組みのデータベースに登録されている事業の評価(セレクト100)の実施
- ・ 母子保健のガイドライン作成

3) 報告書作成について

- ・ 今年度の報告書提出は厚生労働科学研究成果データベースへのアップロードとなる。
- ・ 容量制限、使用不可能な文字等、いくつか注意が必要な事項がある。

- ・ 報告書提出締め切りは、平成 29 年 2 月 28 日（提出先は山縣班事務局の秋山まで）。

【「健やか親子 2 1（第 2 次）」ホームページに関する全体会議】

日時：平成 28 年 6 月 1 日（水）

（時間：17：00～18：00 場所：東京）

場所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター カンファレンスルーム 40(オー)

検討結果

- ・ 取り組みのデータベース、乳幼児健診情報システムの事務的運用（問い合わせ等）が現在は山梨大学になっている。今後について、まず、現在山梨大学で受けている問い合わせ内容や問い合わせの対応方法等の説明を行った。それを踏まえ、「平成 27 年度「健やか親子 2 1（第 2 次）」普及啓発業務」受託者（株式会社小学館集英社プロダクション）（以下、株式会社小学館集英社プロダクション）社内で検討することとなった。
- ・ 「乳幼児健診情報システム」の 2016 年度の作成や、ホームページの差し替えについては、等研究班で行う。

【「健やかな親子」とは何かの検討、および「健やか親子 2 1（第 2 次）」の更なる推進に関する合宿・会議】

● 合宿

日時：平成 28 年 10 月 21 日（土）～

平成 28 年 10 月 22 日（日）

（場所：山梨）

検討結果

「健やかな親子」「健やかな家族」「健やか 10 箇条」についてのブレインストーミングを行い、様々な意見を以下の 9 つの領域に分類した。

- ・ コミュニケーション

- ・ 支える・支えられる
- ・ 傷つけない
- ・ ルール・価値観・ノーム
- ・ 安心・信頼
- ・ 役割
- ・ 自立
- ・ 地域とのつながり
- ・ 総論

これらについて、各自次回の会議までにより見解を深め、検討することとした。

● 会議

日時：平成 28 年 12 月 26 日（月）

（時間 16：00～19：00）

場所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター ミーティングルーム 4A

検討結果

- ・ 前回の合宿で出された、「健やかな親子」に関する意見について、エビデンス収集および文献検索の結果について報告し、参加者で意見交換を行った。
- ・ エビデンスを一般の方向けに広報することを念頭に、分かりやすい文言、情報提供の方法について検討し、まとめ直していく。
- ・ 10 箇条は多いため 3 つにし、さらに国民全体で「健やかな親子」について考えていくことを表現するため「ポイント」とする。

【出生届出時から乳幼児健診の情報の入力システムの構築に関する進捗状況報告会】

日時：平成 28 年 11 月 28 日（月）

（時間：18：00～21：00）

場所：ステーションカンファレンス東京 402A

1) 研究分担者および研究協力者の研究の進捗状況に関する発表

- (1) 永光 信一郎

<研究テーマ>

- ・ 出生届出時から乳幼児健診の情報の入力システムの構築、自治体における母子保健情報の利活用に関する研究(福岡県における調査研究)

<報告>

健診実施者の立場から、乳幼児健診のデータをどのように活用していけるか、母子の健康改善のために有益な情報は何か、について検証を行っていく。そして、これらの具体的検証として、縦断的・横断的解析、特定妊婦の実態調査を実施していることを報告した。

(2) 松浦 賢長

<研究テーマ>

- ・ 思春期まで(乳幼児健診と義務教育)の保健情報を用いたデザインと解析について。

<報告>

子育て世代の包括支援センターが情報を共有する基盤となるための4つの位置づけについて。

- ・ 乳幼児健診の情報共有センターとして。
- ・ 妊娠出産時期からの地域医療機関からの情報提供を受ける場所として。
- ・ 学校保健情報の共有センターとして。
- ・ 不登校の児童・生徒の保健情報を残す場所。

(3) 山崎 嘉久

<研究テーマ1>

- ・ 乳幼児期の健康診査を通じた新たな保険指導手法等の開発のための研究

<報告1>

- ・ 乳幼児健診に係る事業の数値評価について。
- ・ 支援対象者のフォローアップと支援の

評価について。

<研究テーマ2>

- ・ 機関連携によるハイリスク妊産婦の把握と支援に関する研究

<報告2>

- ・ 愛知県内の病院で行われている研究の報告。

(4) 吉田 穂波

<研究テーマ>

- ・ 地域モデルの構築と研修プログラムと人材育成

<報告>

- ・ 人材育成に関するプログラムの紹介(「健診・医療・介護等のデータを活用した効果的な生活習慣対策の立案・実施・評価のための『人材育成プログラム・実践ガイド』の開発」(健診・医療・介護等データベースの活用による地域診断と保健事業の立案を含む生活習慣病対策事業を担う地域保健人材の育成に関する研究 研究代表：横山徹爾))。

(5) 田中 太一郎

<研究テーマ>

- ・ 沖縄県における妊婦健診・乳幼児健診等データの連結・利活用に関する研究

<報告>

平成28年度に実施した内容の報告(以下4点)。

- ・ 県と市町村が協力して、妊娠届出台帳データ、妊婦健診データ、乳幼児健診データを引き続き、県に集積・データ突合
- ・ 喫煙およびやせに関する、妊婦への保健指導の実施(21市町村、27医療機関)
- ・ 妊娠届出書、妊娠届け出時アンケートの県内市町村での統一に向けた検討

- ・ 貧血検査の意義・妥当性に関する検討

【産科医療機関との連携に関する調査実施に関する打ち合わせ会議】

日時：平成 29 年 1 月 7 日（土）

（時間：12：00～15：00）

場所：TKP 東京駅前カンファレンスセンター
ミーティングルーム 5B

1) 調査に関する検討

研究計画に関する説明とそれに対する意見交換を行った。調査で使用する問診票については、各項目について文言やハイリスク妊婦を抽出するための点数の検討を行い、修正を加えることとした。また、調査対象機関は、大阪、宮城、東京で実施することで調整していくこととし、調査実施に向けて倫理申請の準備も並行して行うこととした。

2. 平成 28 年度母子保健指導者養成研修等事業（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）における「平成 28 年度『健やか親子 2 1（第 2 次）』と母子保健計画の策定・評価、母子保健情報の利活用についての研修」

平成 28 年度母子保健指導者養成研修等事業（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）「平成 28 年度『健やか親子 2 1（第 2 次）』と母子保健計画の策定・評価、母子保健情報の利活用についての研修」において講義と演習を行った。

実施内容

- 講義・演習 1

「母子保健計画の策定と健やか親子 2 1（第 2 次）の指標に基づく問診項目」

次の 5 点について講義と演習を行った。

- 1) 「健やか親子 2 1（第 2 次）」を整理する

- 2) 必須問診項目を知る

- 3) 各必須問診項目を深める

- 4) 母子保健計画の策定を考える（演習）

- 5) 必須問診項目の利活用を考える（演習）

1) では「健やか親子 2 1（第 2 次）」の理念や目的、課題の構成についての概要を説明した。2) と 3) では、乳幼児健診の必須問診項目に設定され、毎年度の母子保健調査で状況を把握する 15 指標についての概要と、各指標のポイントの解説を行った。そして、4) 5) の演習では、4～6 名のグループを作り、グループでの意見交換を行いながら進めた。4) では、各自治体の乳幼児健診モデルや各自治体の母子保健計画の状況、必須問診項目の活用状況について、集計システムを使用し、参加者に質問し、参加者間で各自治体の状況を紹介し、情報共有を行った。最後に 5) では、必須問診項目の利活用状況を各グループ内で各自治体の状況を紹介し、さらに質問票で気になる選択肢に「がついていた場合の対応方法等について意見交換を行い、発表した。

演習では、虐待や育てにくさに関する項目を抽出して話し合ったグループが多かった。必須問診項目を健診で取り入れている自治体では、必須問診項目を含めた健診票を送付した時点で、保護者から「虐待を疑っているのか」といった問い合わせがあったという意見がでた。しかし、多くの自治体からは、予想外に保護者の方々は普通に記入されており、気になる項目に「がついている場合には、そのことがきっかけとなって話を聞くことができた、という意見を聞くことができた。また、必須問診項目を取り入れていない自治体の、取り入れていない理由としては、法的根拠がないためや各関係機関との検討で調整がついていない、といった意見が出された。

- 講義・演習 2

「予算がなくてもできる！母子保健計画の策定とPDCAサイクルの進め方」

次の3点について講義と演習を行った。

1) 評価とは

(1) 評価の基本的な考え方

(2) 結果の示し方

2) 母子保健計画策定の実際

(1) 計画の考え方

(2) 地域の現状把握

(3) 優先課題の抽出と整理

(4) 指標と目標の設定

(5) 予算がなくても策定可能か

3) 演習

1) では評価する意味や評価することの必要性、評価の観点、評価のための分析方法や結果の示し方等を講義した。2) では母子保健計画を策定する際の考え方や、実際に母子保健計画を策定した自治体を例に出し、策定の流れに沿って手順を紹介しながらポイントを講義した。そして、3) では、「講義・演習1」で作成したグループで演習を行った。演習は、各グループ内で各自自治体で「気になること(地域の課題)」を出し合い、その中から1つを選び、その課題に関する指標を、健康水準・健康行動・環境整備の3つそれぞれで検討し、発表した。

演習で抽出された課題は、子育ての孤立、精神疾患を持つ親、スマートフォン依存の親、等が多く取り上げられた。演習中には、どのようなことを指標としたらよいのか、健康水準と健康行動の違いがよく分からない、といった質問を受けた。短時間であることや、初めて指標を考えるという参加者が多かったため、イメージをつかむことが難しいといった感想がでた。一方で、指標を抽出することや、どのような指標が必要なのか、といったことを考えることで自ら

の自治体に不足している情報に気づくことができ、いい機会になったとの声も得られた。

- グループワーク

「自分の地域の母子保健計画について考える～現在の取り組み状況と課題～」

次の3点について、1)2)と同様のグループ内で意見交換や検討を行った。

- 1) 母子保健計画をどのようにとらえているか
- 2) 母子保健計画の策定にあたっての課題
- 3) 母子保健計画の作成を明日から始めるには

1) では、母子保健計画を立てる必要性と他の計画に盛り込まれているか否か、そして地域の健康計画の策定に関わった経験の有無や、母子保健計画を策定していない理由について、各グループ内で情報交換し、発表した。2) では自らの自治体で母子保健計画を策定する場合、作成方法、PDCAサイクルの方法、リソース等について、何ができて、何ができないのか、また何が難しいのか、そして、評価はできるのか、等について検討をしてもらった。また、3) では、母子保健計画を作成するために、優先順位や作成の方略、作成することで得るもの等を各グループ内で検討してもらった。そして、簡単にできる母子保健計画の7つのステップとして、以下の7点を示した。

- (1) ひな形の決定
- (2) 重点項目の決定：地域の特徴
- (3) 重点項目の現状分析
- (4) 計画シートの作成
- (5) 目標シートの作成
- (6) 他の必要項目を決定し、計画シート、目標シートはコピーペースト
- (7) PDCAサイクルの日程

さらに、大切なこととして、母子保健の視点を持つこと、関係者が共通の認識を持ち、思いを共有し、次の担当者へ引き継ぐことができること、目標値の決定方法や測定方法が再現できること、を示した。

参加者からは、母子保健計画を策定するには時間がない、日々の業務で手いっぱいになってしまう、等の意見が多数聞かれた。しかし、母子保健関係者が同じ目標に向かって、同じ方向を向いて進むことができるため、母子保健計画の必要性を強く感じているという意見も多く、この研修会で学んだことを自治体に持ち帰り、情報共有をし、優先順位を決めて、母子保健計画単独ではなく、他の計画に含む形であっても、目指すゴールを明示することは重要であると、前向きな意見が得られた。

D. 考察

本稿では、平成 27 年度から新たに開始された「健やか親子 2 1 (第 2 次)」の推進のため、本研究班では母子保健情報利活用の推進のための環境整備についての検討会議、研修会を実施し、その経過報告を行った。

「健やか親子 2 1 (第 2 次)」においては、第 1 次計画に引き続き、さらなる情報の利活用の促進のため、情報利活用の環境整備を強化する必要性があった。今年度から、本研究班は新体制となり、第 1 回目の班会議では、「出生届出時から乳幼児健診の情報の入力システムの構築とモデル事業」「母子保健情報利活用のためのガイドラインの作成」「母子保健領域における予防、健康増進の視点からのデータベースの構築とシステムティック・ビュー」「『健やか親子 2 1 (第 2 次)』に係る自治体等の取り組みのデータベースの構築・運営」の 4 つの計画を示し、本研究班の方向性を示した。

「出生届出時から乳幼児健診の情報の入力

システムの構築とモデル事業」としては、福岡県で特定妊婦の実態調査を行い、今後の母子保健情報の利活用が可能となる体制整備の一助とした。また、産科医療機関と地域との情報共有については、前年度に産科医療機関や自治体の方へのフォーカスグループインタビューを行い、現状の問題点や課題を把握した。今年度はその結果を踏まえ、産科医療機関と地域との情報共有体制の整備のため、大阪、宮城、東京の 3 か所でモデル調査を行うことをめざし、研究計画を立て、問診票の作成や協力機関の調整等を進めた。来年度はモデル地区での調査実施を予定しており、その結果が今後の産科医療機関と行政間の情報共有の一助となると期待する。

そして、母子保健に関するシステムティック・レビューや健康格差に関する検討も行ったことから、母子保健情報利活用のためのガイドラインの作成に向け、基盤が整いつつあると考える。来年度以降、さらに研究を進め、ガイドライン作成を進めていく。また、母子保健情報利活用のための研修プログラムの作成も進んでおり、母子保健情報利活用の環境基盤の構築が促進できたと考えられる。

E. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 篠原亮次, 秋山有佳, 山縣然太郎: 乳児期の母親の喫煙と市町村の継続的育児支援の関連 - 健やか親子 21 最終評価から - . 厚生指 63 (8). 2016.8

2. 学会発表

- 1) 篠原亮次: 養育者の仕上げ磨き行動とかかりつけ歯科医の有無および自治体の乳幼児歯科保健対策の状況との関連 - 健やか親子 21 追加調査データから - . 第 63 回日

- 本小児保健協会学術集会．2016年6月23日～25日．大宮ソニックシティ(さいたま市)
- 2) 篠原亮次, 秋山有佳, 山縣然太郎: 母子保健情報の収集と利活用に向けた「乳幼児健診情報システム」の開発と周知. 2016; 63 (10: 特別附録). 443. 第75回日本公衆衛生学会総会. 2016年10月26日～28日. グランフロント大阪 他(大阪府大阪市)
- 3) 秋山有佳, 篠原亮次, 市川香織, 尾島俊之, 玉腰浩司, 松浦賢長, 山崎嘉久, 山縣然太郎: 3・4か月児と3歳児の保護者の経済状況と育児環境との関連～健やか親子21データ～. 2016; 63 (10: 特別附録). 461. 第75回日本公衆衛生学会総会. 2016年10月26日～28日. グランフロント大阪 他(大阪府大阪市)
- 4) 秋山有佳, 篠原亮次, 市川香織, 尾島俊之, 玉腰浩司, 松浦賢長, 山崎嘉久, 山縣然太郎: 経済状況別にみた育児満足感に関わる育児環境要因の検討～健やか親子21データから～. 2017; 27 (Supplement 1 講演集). 106. 第27回日本疫学会学術総会. 2017年1月25～27日. ベルクラシック甲府(山梨)
- 5) 榊原文, 濱野強, 篠原亮次, 秋山有佳, 中川昭生, 山縣然太郎, 尾崎米厚: ソーシャル・キャピタルと産後うつ発生率との関連. 2016; 63 (10: 特別附録). 454. 第75回日本公衆衛生学会総会. 2016年10月26日～28日. グランフロント大阪 他(大阪府大阪市)
- 6) 田中太一郎, 仲宗根正, 谷口亜季, 上里とも子, 山川宗貞, 山縣然太郎: 沖縄県妊産婦・乳幼児支援体制整備事業(第4報)-産科医療機関への分析結果還元例-. 2016; 63 (10: 特別附録). 450. 第75回日本公衆衛生学会総会. 2016年10月26日～28日. グランフロント大阪 他(大阪府大阪市)
- 7) 大澤絵里, 今村晴彦, 朝倉敬子, 西脇祐司, 尾島俊之, 山縣然太郎: 乳幼児の母親の育児満足感・自信と育児サポート環境との関連. 2016; 63 (10: 特別附録). 456. 第75回日本公衆衛生学会総会. 2016年10月26日～28日. グランフロント大阪 他(大阪府大阪市)
- F. 知的財産権の出願・登録状況**
- 1. 特許取得**
なし
- 2. 実用新案登録**
なし
- 3. その他**
なし